



保育理念	受ける愛 与える愛
	—愛されていることを知り・愛する者となるために—

「気づく」

新年度が始まって1ヶ月がたちました。満開に咲いていた桜も、玄関先で可愛い姿で出迎えていたチューリップも、青空に気持ちよさそうに泳いでいる鯉のぼりも、今年は、喜んでくれる子どもたちが、少ししかいません。新学期が始まり4.5日経った頃より目に見えない新型コロナウイルスの脅威に脅かされることになってしまったからです。幼稚園でいっぱい遊びたいと思って園生活を楽しみにしていた子どもたち、そして保護者の皆様には、本当に申し訳ない思いばかりです。

幼稚園では、家庭で過ごしている皆様のことを決して忘れておりません。毎日の祈りに覚え一日も早くこの状況が終息し、子どもたちが安心して生活し、思う存分遊ぶことのできる日常が戻るようにと祈っています。とは言え、目の前には新型コロナウイルス感染拡大で、状況は日々刻々と変化し、そのための対応に追われ、心も体も休まらない日々を過ごしておられることでしょう。未だにトンネルの出口が見えず、不安と混乱の中にありますが、一人一人がなすべきことをなし、正しい情報のもとに正しく恐れ、互いに知恵を出し合い冷静な姿勢でこの困難を、乗り越えてまいりましょう。また、尊い仕事に携わっておられる方々の健康と生活が支えられます様に、共に祈ってまいりましょう。

様々な事情を抱えながらも、家庭保育にご協力して下さっております皆様に感謝いたします。そして、やむを得ず仕事に励んでおられる皆様には、健康に十分留意してお過ごしくださいます様に切に願っています。

突然に湧きあがった「新型コロナウイルスの脅威」は、当たり前前に生活していたことが、実は当たり前ではなかったと「気づく」契機になっているように思うのです。親子で過ごす日々の中で新たな気づきはないでしょうか？親子の触れ合いの中で、信頼感の深まりを感じたことないでしょうか？日常の生活が、いかに多くの人々によって支えられていたかと気付く時でもありますね。今は忍耐の時。一人ではありません。一人一人が忍耐してこの難局を乗り越えて参りましょう。必ず希望に満ちた時が訪れることを信じて参りましょう。出口のないトンネルはないことを、信じましょう。

「あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」(イザヤ書 43 章 1 節)

「なんと素敵なあなたのお名前」

幼い頃、我が家には大きなキリンのぬいぐるみがありました。父の会社のクリスマスパーティーで行われたビンゴ大会で当てたぬいぐるみです。当然、私は毎日のようにそのぬいぐるみと遊ぶわけですが、ただの「もの」として扱うことはありませんでした。今ではもう思い出すこともできませんが、このぬいぐるみに自分で名前を付けて、友人、兄弟かのように接していたのです。その時は既に二つ下の弟がいたのですが、その弟と同じくらいの気持ちで付き合っていたのではないのでしょうか。名前を付けるというのは、その相手を人格として認め、自分にとって特別な存在であると認めることです。

全く別の話になりますが、命の尊さを学ぶために、学級で豚を飼育し、最後にクラスのみんなで食すという教育のドキュメンタリーをテレビで見かけることがあります。子どもたちはこの営みの中で様々な経験や決断を重ねていくわけですが、あの教育の第一の決断は、飼育する豚に名前を付けるかどうかです。畜産を生業とする多くの方々は、愛情をもって接しながらも、動物に名前は付けません。それはなぜでしょうか。名前を付けてしまった子供たちのその後の様子を見れば、それがよく分かります。名前を付けた途端、子ども達の豚に対する情は非常に厚いものになり、家族のような存在として愛してしまいます。そして、その故にいざその命が奪われようとするならば、涙を流して抵抗するようになってしまったのです。ただ名前を付け、その名を呼んだだけ。しかし、名前を付けるというのは、その相手の命を自分の命かのように受け止める大きな決断であると思わされました。

今月の聖句であるイザヤ書には、神様はあなたを「わたしのもの」とし、そして「名を呼ぶ」と書かれています。これまで書かれてきたことを読む時、これがどれだけの意味を持っているかが分かります。神様の愛は「なんとなく」みんなのことを愛するというものではありません。すべての者を愛するとともに、その一人ひとりを特別な存在として、命に代えて愛しておられるのです。そのことを誰に願われるでもなく、そして私たちに何かを求めるでもなく、神様は御自身の意思として決定されました。私たちが神様のことを忘れる時も、神様にとってあなたは「わたしの子」と呼ぶべき特別な存在。神様に逆らい、悪い事をしてしまう時も、神様にとってあなたの命は御自分の命に代えてでも守りたいもの。この絶対的な愛が子どもたちに、そして皆様に等しく注がれているのです。愛されていると知ることから愛することは始まるのです。

